

第26回参議院議員選挙に際して
LGBT (SOGI) をめぐる課題に関する
各立候補者の政策と考え方に関する調査のお願い

政党名 (日本共産党)
選挙区 (香川)
候補者名 (石田 真優)

問1. 個人の選挙公約に性的指向・性自認に関する人権を保障する施策について記載はありますか。(選択式)

1.記載がある

選択肢： 1.記載がある
2.記載はないが、取り組む予定である
3.記載はなく、取り組む予定もない
4.その他 ()

問2. 超党派の「LGBTの課題を考える議員連盟」で2021年5月に与野党合意に至った法案についてご意見をお聞かせください(選択式)

1.賛成

選択肢： 1.賛成
2.反対
3.その他 ()

問3. 性的指向及び性自認に関する法整備について、いつまでに成立させるべきとお考えですか(選択式)

1.早急に成立させるべきだ

選択肢： 1.早急に成立させるべきだ
2.法整備は必要だが、さらに検討を重ね、国民的合意を図るべきだ。
3.法整備の必要性について、引き続き議論すべきだ。
4.法整備は必要ない
5.その他 ()

問4. 以下の各分野の課題について、どのようなスタンスでしょうか。（選択式）

<選択肢> 1. 賛成、2. どちらかといえば賛成、3. どちらかといえば反対、4. 反対
その他

(1) LGBT に対する（性的指向・性自認に係る）、差別や不利益取扱い防止・禁止する法律やルールを制定すべきだ。

1. 賛成

(2) 学習指導要領に盛り込み義務教育の中で性的指向・性自認の多様性について子ども達に教育すべきだ。

1. 賛成

(3) 学校における、LGBT へのいじめ・ハラスメントの防止体制を確立すべきだ。

1. 賛成

(4) 多様な性自認・性的指向に基づいた適切な対応ができるよう、教育現場や医療現場など各分野の実態調査を行い、結果を公表すべきだ。

1. 賛成

(5) 性的指向・性自認に関する職場の取り組みについて、国が広くガイドラインを策定するなど、企業等の取り組みを積極的に支援すべきだ。

1. 賛成

(6) 困難を抱く「LGBT」等当事者に対する、相談・支援の仕組みを、学校・職場・地域等に整備すべきだ。

1. 賛成

(7) 相続や各種の補償などについて民法上、同性パートナーが配偶者として扱われないことで生じる不利益を、同性パートナーも配偶者として同等に扱うことで、解消すべきだ。

1. 賛成

(次のページへ続きます)

問 5.性同一性障害特例法の見直しについて、下記の背景を踏まえて、お答え下さい。（選択式）

〔背景〕

戸籍の性別変更の要件は、性同一性障害特例法（2003年成立、2008年改正）で定められています。しかし、WHOの国際疾病分類第11版（ICD-11）が2022年1月から国際的に発効し、「精神障害」の分類にあった「性同一性障害」が削除されて「性の健康に関する状態」分類の中に「性別不合」（日本精神神経学会仮訳）として位置づけ直されたことに鑑み、同法を改正する必要があると指摘されています。また、海外の現状と比べると要件が厳しすぎるとの指摘もあります。現在要件外の当事者についても、円滑な社会生活を行えるよう、改正を求める強い要望が当事者団体などから出されています。たとえば、

- ・ 「現に未成年の子がいないこと（子なし要件）」に関して
→未成年の子どもがいても、子どもが親の外見等の変更を受け容れていたり、円滑で安定的な就労による子の扶養のためにも、性別変更が望ましいと思われるケースが少なくない。性別変更を認める諸外国（イギリス、フランス、イタリア等）では、こうした要件を課す国はない。
- ・ 「手術要件」に関して
→既に海外では手術を性別変更の要件にしない国が増えつつある（現在73ヶ国）。WHOの勧告にあるように、戸籍の性別変更手術を要件とすることは、人権上問題である。また身体的・経済的負担が非常に大きいことから問題であり、外すべきである。
- ・ 「非婚要件」に関して
→特例法では性別変更にあたり「現に婚姻していないこと」を要件にしている。この「非婚要件」については近年ヨーロッパ諸国を中心に同性婚が認める国が増え、そのような国々を中心にこの要件は廃止となっている。

<選択肢>

1. 積極的に見直して改正すべき
 2. 改正が必要か否か検討すべき
 3. 見直す必要はない
 4. 答えられない／わからない
- その他

- (1) 子なし要件を削除し、家庭裁判所による個々の事情を踏まえた判断にゆだねる
 - 1.積極的に見直して改正すべき
- (2) 手術要件を削除する
 - 1.積極的に見直して改正すべき
- (3) 必要な関連法改正を行ったうえで、非婚要件を削除する
 - 1.積極的に見直して改正すべき

(次のページへ続きます)

問 6. 最後に感想や、当事者やその家族の皆さんへのメッセージなど自由にコメントをお願いします。

アンケートは以上となります。

ジェンダー平等は、誰もが自分らしく尊厳を持って生きることができる社会をつくることを目標とするものです。私は今回の選挙で、男女の賃金格差は年収で240万円、生涯賃金で1億円もの格差があること。男女の賃金格差の是正はジェンダー平等社会の土台と訴えています。世界でも異常な日本のジェンダー平等の遅れのおおもとは二つの大問題があります。一つは、明治時代に強化されたジェンダー差別の構造を、自民党政治が今日まで引き継いでいることです。「男性が主、女性は従」「女性は結婚したら家に入る」など、明治憲法下の家父長制の日本を「美しい国」だったと考える人たちが自民党政権の中枢にすわっているために、選択的夫婦別姓も、同性婚・LGBT平等法も実現を阻まれ続けています。もう一つは、女性を安上がりの労働力として利用したいという財界の意向のままに、自民党政治が女性差別の構造を幾重にも積み重ねてきたことです。特にこの間、女子保護規定の撤廃、派遣労働の全面解禁、労働時間規制の緩和などの雇用破壊が進み、子どもがいる女性は非正規を選ばざるを得ない状況に追い込まれてきました。古い価値観と財界言いなりの政治・・・この二つを断ち切るには自民党政治を終わらせる以外にありません。日本共産党は綱領に「ジェンダー平等社会をつくる」ことを掲げ、全国津々浦々で湧きおこっている運動と声に「ともにある」という姿勢で連帯することを決議しています。私、石田真優も性被害やDV防止のフラワーデモやLGBTをめぐる学習会や集会に参加してきました。この参議院議員選挙で新しい日本を切り開くために力を尽くします。

ご協力いただき、誠にありがとうございました。

アンケートは以上となります。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。